

平成24年度第2回山形駅西口拠点施設検討有識者懇談会議事録

日時：平成25年2月21日（金）

会場：山形県県民会館 地下講堂

【貝山委員長】

それでは、議事次第に従って議論を進めていきたいと思いますが、吉村知事も最後までご出席いただけるということですので、是非今日はこれだけは言っておきたいということがあれば、知事にお伝えいただければと思います。先ほど知事のお話にもありましたように来年度当初予算にこの関係予算が組み込まれたということは、県が本気で取り掛かるという姿勢の現われだろうと思っております。それから、今日この施設を見学させていただきました。前回、委員の方からキチンと見て、できればここで会議をした方が良さだろうという提案がありまして、それが実現して、今日こういう運びになったわけですが、皆さんご覧になりまして、50年経つとこうなるんだ、あるいは、この文化会館、劇場というのはこの程度のものだったということが良く分かったと思いますが、私は逆に昔の昭和を思い出して、懐かしく思って、こういうのはちゃんと遺産として残しておいた方が良くないかと思ったりもするのですが、非常に使い勝手が悪い、あるいは県民のニーズはもう一寸高いところにあるというのは前回の議論でも良く分かりましたし、今回この施設を見て、なおのことギャップをどうやって埋めるのだろうという思いを強くしましたので、今日は皆さんから忌憚のないご意見をいただきたい。知事には満足してお帰りいただければと思っております。まず、事務局から資料の説明をお願いします。

【事務局】

前回の状況を簡単に報告しまして、併せて本日意見交換をしていただくたたき台の資料を準備しましたので、説明します。資料1をご覧ください。前回の主な意見をまとめたものです。1頁目①と②、現県民会館の課題と文化機能への意見、2頁目③の賑わい機能への意見、④総論と、大きく4つの視点で整理しています。まず1頁目の①と②の関係ですが、主に席数が少ない、舞台が狭い、楽屋裏の通路が狭い、などの施設・設備面での陳腐化のご指摘が沢山ございます。これらに起因して全国大会等の催し物、全国ツアーのコンサートを鑑賞する機会が失われているという意見。また、障害者の方が鑑賞できる部屋が必要、あるいは作品を展示するギャラリーがあれば賑わいも出てくるなどのご意見もありました。2頁目、カフェの設置との提案、カフェに各市町村の良い物、特産品を使用する、あるいは展示購入できるような機能、加えて新幹線の待ち時間等を利用してそこで過ごせるような空間があれば良いとのご意見を頂いております。また、芸術家を目指す若者が仕事をしながらそこで芸を磨くような場、実際そういうような取り組みをしているという紹介もありました。また、プロジェクトを立ち上げようとする若者が共有できるコワーキングスペースという提案もありました。また、イベントができる広場を確保すべき、さらには、山形らしさを備えた施設であってほしい、といった様々なご意見がありました。資料2をご覧ください。施設イメージたたき台を準備しました。修正基本設計書並びに前回の懇談会で頂きました意見を踏まえ、施設のイメージとしてまとめたものです。本日はこの資料をたたき台にして、様々なご意見、ご議論をお願いできればと思います。まず、左側の方に青い部分ですが、大ホールの機能をまとめ

たものです。それから、緑の部分ですが、大ホール以外の文化振興機能、あるいは附帯機能として整理した部分です。右側、黄色い部分ですが、施設に附帯する賑わい創出ですとか、情報発信機能、そのイメージを記載しています。また、下のグレーの部分ですが、広場の活用です。通常はイベントとか、散策に活用したいと考えていますけれども、防災広場のイメージも持って整理しています。白い部分は施設全体として県の産業のPR機能とか、再生可能エネルギーの導入も検討していく必要があるということで整理しています。青色の部分、大ホールと附帯機能の部分について補足説明をします。資料3をご覧くださいと思います。他県の最近整備された県立文化施設の概要を整理したものです。ここに、六例、一番右に写真の入ってないところが、山形駅西口で今検討を進めているもので整理しました。中段に大ホールの席数を整理したところです。ほとんどが1,800席以上という現状にありまして、左から2番目の芸術文化センターだけ1,500席ですが、島根県の益田市というところにありまして、この会館と同じ規模ですが、他に松江市に1,600席の県民会館をお持ちで、この県は特殊な事情があります。それから、大ホールの下の欄に中小ホールがあります。前回の懇談会でもお話いただきましたけれども、大ホールに加えて、中ホール、小ホールを備えたホールがほとんどという状況です。山形駅西は、中小ホールについては、今書いている施設で手当するのではなくて、山形テルサのホールがありますので、機能分担をして、駅西文化施設からは中小ホールは除く計画をしていきたいと考えています。それから、一番下の方に備考欄があります。2行目に、四面舞台とか三面舞台とかの表現があります。これは、演劇とかをする場合に、二幕目、三幕目を通常見えるステージの両脇に準備して、二幕目がスタートするとき短時間で舞台を変えられることができる仕組みです。今の県民会館はそういう装置がないですが、袖舞台を複数持っているのが最近の施設の特徴です。それから、もう一つ備考欄、幅と奥行きと高さを表しています。これも県民会館は標準的なサイズに合わないというご指摘をいただいたところです。大ホールの席数の下に性格づけを書いています。一番左がオペラハウスに近い形状とありますけれども、それ以外は多目的ホールで、なるべくいろんな目的に使うという考え方のホールがほとんどであり、西口も多目的ホールを想定をします。次の資料は、演劇ホールと音楽ホールの違いについての整理です。一番右側が音楽専用ホールです。山形テルサがこのタイプのホールになります。このホールは非常に音楽に向いていますけれども、演劇の使用には向いていない、現場を見ていただくと分かりますが、緞帳もない。ということは音楽に特化したホールになります。それから、左が演劇専用ホールですが、左に、平面図と立面図がありますが、平面図の左側が舞台です。これが四面舞台で、二幕目、三幕目の舞台があらかじめ準備できる舞台になっております。それぞれ、形状も違いますし、設備も全然違ってきますが、我々の計画している多目的ホールは、真ん中、ある程度音楽にも対応できるし、演劇にも対応できるということで計画をしてはどうかと考えております。資料5をご覧ください。山形らしさということで、「食産業王国やまがたのアピール」例を出しました。本県の農産物を活かし、料理として楽しんでいただくとか、直接お買い求めいただくとか、それを加工して料理教室の体験をしていただくとか、他県でも取り組みをされておりますので、例を掲げております。左が、福井市のファームヴィレッジさんさんという施設で、地元の生産物を活かして様々な活動に活かしている。左下にありますが、高校生のインターンシップの受け入れ、料理教室の開催などをして、産業の振興あるいは地域の活性化に資する活動をしているということです。右が、全農で、東京近郊の農家の生産物を利用して食堂・カフェをやっている、あるいは利用者を生産地に案内してミニツアーをやっている、一つの検討材料として、参考まで提示したものです。資料6は、山形駅西口に既にオープンしている霞城セントラルと山形テルサがあります。もう一つ、計画が凍結されている西口拠点施設、三施設を並べてみた

ものです。それぞれの施設の機能ですとか、入居の状況を記載していますが、オレンジ系が商業系、賑わい創出系の施設の機能です。ここは、施設ごとに役割分担をするということがあると思いますし、もっと機能を集めていくといった考え方もあると思いますけれど、現状としてこういった形で入居している、あるいは計画している、ということで、全体のバランスなども見ながらご議論いただければと思っております。資料7は、再生可能エネルギーとか、防災・減災の機能導入のたたき台として準備したものです。左側が再生可能エネルギーの導入で、太陽光の利用ですとか、風力、地中熱、それから雨水の利用ということを検討してはどうかということ、右側の方が防災・減災機能ですが、山形駅西ということで帰宅困難者が発生するということも考えられますので、一時避難場所ですとか、そういった方への支援物資の保管ということを検討の材料にしています。それから、右下の方は、賑わい広場ということで広場の整備をするわけですが、そこにある程度、水道、かまど等の手当てをしておくことで、防災広場としての機能が発揮できるのではないかと整理しているところです。参考資料は、懇談会の委員の皆様から、資料提供をいただいているものです。資料1は、アートファクトリーということで、伊東委員から頂戴している資料で、北上市の例で文化施設の中に、練習室がありますけれども、中で練習する若い方々が活用している様子が外から見えるということで、賑わい創出、あるいは人々の動きが分かりやすいということで、人の交流が多くなっている事例紹介をいただいております。それから、次の資料ですが、淡路島のプロジェクトで、前回の会議で奥田委員の代理の齋藤さんから説明していただいたものです。後ほど補足等があればお願いできればと思います。以上、事務局で準備している資料の説明です。

【貝山委員長】

ありがとうございます。前回の議論を踏まえて、かなり具体的な提案、たたき台を出していただいております。議論は大分し易くなったように思います。後で、皆さんからご発言いただきたいのですが、伊東委員と奥田委員から資料提供がございますので、補足説明をしていただければと思います。

【伊東委員】

それでは資料1の説明をします。さくらホールという丁度10年前に造ったホールです。これは、大ホール、中ホール、小ホールと三つのホールがあるんですが、そのど真ん中にアートファクトリーと呼ばれている21の部屋があります。練習室であったり、会議室であったり、和室であったりですね、様々な用途の小さな部屋が21あります。最近、新しく劇場法ができましたけれども、昔と今とでは劇場に関する考え方が違っておまして、我々の古い常識で言いますと劇場とは舞台芸術を鑑賞する場であるという位置づけだったと思うのですが、今の定義はそうではなくて、舞台芸術を創造するための空間が劇場であるということです。ですから、ホールだけあったのでは劇場とは呼べない、練習室、リハーサル室、あるいは情報センターといった機能がなければ劇場ではないのだと定義づけが変わってきております。さくらホールはまさに、若者達が練習をし、作品を作り上げていく場が中心になっています。そのときの発想というのは、練習室を使う方々からの発想ではありませんでした。練習するときに見られるのは嫌だという人の方が実は多かったです。でも、覗かせて欲しいという願望があったんですね。というのは、劇場という場所は公演があるときにしか人が集まらない、日常的には誰も人がいない施設になってしまうんですね。そうではなくて、時間が空いたから、暇だから行ってみようという施設にしたかった。裏側の写真を見ていただきますと、練習室のガラスの箱にポイントがあるだけでなく、その隙間の空間が非常に重要なんです。

ウッドデッキの大きな空間があって、そこに椅子テーブルが置いてあります。近所の高校生達は学校が終わるとそこでまったりと時を過ごしています。勉強している子がほとんどですけれども。その子達がふと目を上げると、ガラス張りの中で同じ年代の子供達がバンド演奏していたり、ダンスを踊っていたりという姿が見える。僕の世代で言いますと、エレキギターをやっている子は大体不良と言われていたわけです。そうではなくて、実はそういう子達も一生懸命活動してるんだという姿を見ることによって、同じ世代の人達も、それから年上の人達も、「ああ、若者達も頑張っているじゃないか」というふうに思ってもらいたいということで、このアートファクトリーというのはガラス張りの練習室にしたという経緯があります。実際に、稼働率も高くて、大体練習室は90%くらい稼働しています。時間単位でみても50%ぐらいですから、中心市街地から外れたところにあるんですが、かなり稼働率が高くなっています。さくらホールは、公共ホールでありながら、12月31日にカウントダウンライブというイベントをやっています。そこが彼らの晴れ舞台なんですね。審査会があって、賞が出るのですが、それを目指して、1年間ずっと練習している、という姿なんです。この練習室、非常に安い。1時間使っても数百円です。でも、その建物を維持するためには、そのお金ではとても賄えない。ということは、この練習室を使う人達は、自分達だけが楽しければ良いということではなくて、その活動が納税者、つまりこの建物を支えている人達、全く縁もゆかりもない人達のお金で支えられているわけですから、その方々にとっても貢献をして欲しい。見せることが貢献になるんだ、こういう考え方をとっています。ですから、当初の発想の中では、カーテンがあって、見せたくないときは隠せるんですが、カーテンの使用料を高くしようというようなお話もありました。実際にカーテンを閉めている例は非常に少ないんですが、能力開発セミナーとか覗かれないときしか、カーテンは引かれない。ですから、カーテンを引いてやっているときは、なんか怪しいことをやっているのではないかと、思うように思われる傾向になっています。こういうところで、着替えたりするものですから、そういうときは是非閉めて欲しいと思ったりもするのですが、非常にオープンに使われていて、常に人で溢れている。北上は人口10万人くらいですけれども、毎年30万から40万人くらいの人達が利用しています。アートファクトリーのウッドデッキで勉強している子達はカウントしていませんから、そういう子達もカウントすると、もっともっと利用人数は多いという状況になっていて、北上の名物スポットの一つになっていると思います。

【貝山委員長】

ここは、ショップとか、レストランとか併設してあるんですか。

【伊東委員】

レストランは併設しています。残念ながら、最初に入ったレストランは1年持ちませんでした。子供達は、レストランでコーヒーを飲むというようなことはなくて、自動販売機ですね。経営が変わってレストランの利用を目的とする人が増えたので、回るようになってきました。

【貝山委員長】

ありがとうございました。後で質問をいただきたいと思います。奥田委員の方から、淡路島プロジェクトの件についてお願いします。

【奥田委員】

今、淡路島の方で私がお手伝いさせていただいているプロジェクトなんですけど、日本

の若者を作るということで、廃校を利用して、若者を育てて、500人程そこに入っています。半農半芸で、農業だけではなかなか食べていけないので、半日はレストランでアルバイトをして、半日は農作業とか、加工品を作るグループとか、歌の勉強する人とか、自分のやりたいことをここでやっていくという、生活に係るお金はレストランの時給で。自分達でやりたいものをやりながら、レストランで生活費を稼いでいくやり方になっています。で、自分の芸にはセンスがないと思った人はレストランの社員になったりというシステムになっています。ここから、上に行く人は上がって行って、向かなかった方はレストランに入っていく。施設は、産直とレストランとカフェとパン屋さんとあります。だいたい、ランチタイムで200人くらい、島民の方とかいろんな方が来ます。レストランもあるんですが、そこは夜になると芸をやっている人達が歌を歌いにきたり、楽器を演奏したりして、自分の芸を磨いていくとか、人前でやるということで慣れていく、そういうことをやっています。パソナグループから、ミスユニバースとか二人くらい出ているので、そこで、生活を支えながら上に上っていく人を磨き合っていく感じになっています。で、これは地元の島民からも愛されていて、地元の方と、島外の方とか、今は観光バスも来るようになっていきます。若者のやりたいことをやらせていく施設になっています。それから、淡路島の島民は13万人です。

【貝山委員長】

ありがとうございました。私の教え子も淡路島の町役場に勤めてますが、これに関わっているかは聞いたことがないですけども、今度会ったら尋ねてみようと思います。今、二つの紹介がありました。先ほどの芸術を創るという言葉に感動しているんですけども、芸術は見るだけではない、そこからクリエイションも何か持ってこなくてはいけない、芸術を作るという言葉に非常に強く感動を受けましたし、若者を育てるということも、人を作るということです。修行させながら、若者を育てていく。大事なことは、淡路島の場合はそこに雇用の場がちゃんとできるということだろうと思うのですが、そういう意味で淡路島のやり方は見習うべきところがあると思いました。以上、伊東委員、奥田委員の補足説明を踏まえまして、一通り資料についてのご説明をいただきました。今日はいろんなご議論を交わしていただきたいと思いますが、ここに書いてありますように、4つポイントがあろうかと思えます。多目的ホールほか文化機能についてということ、賑わい創出機能ということ、それから、再生可能エネルギーの活用や省エネ技術の導入等について、最後が防災・減災等機能についてということ。一応これは目安とに思っただいて、また足りないポイントもあろうかと思えますので、これにとらわれずに、ご自由にご発言・ご意見をいただければと思います。どなたからでも結構です。ご発言お願いします。

【大谷委員】

資料2ですが、たたき台の中で、「賑わい創出・文化育成機能」の部分中ほど、小ホール兼リハーサル室のあたりに、「リハーサル室+ギャラリー」、矢印として「ギャラリーとして回遊できるよう使用」とありますが、このあたりの考えをお聞きしたい。

【事務局】

前回の意見を踏まえて、ギャラリー的な機能を附加したらどうかということでこれを作っております。ギャラリーとリハーサル室ですね、スペース的に十分な余裕がない可能性もありますので、なるべく多機能で使えることをイメージして書かせていただきました。ここでまたご意見を伺いながら、検討を深めていくことになろうかと思えます。

【大谷委員】

ギャラリーとして使用できるように考えていただくということは大賛成なのですが、ただ、リハーサル室なり、ガレリアは良く見えない部分があるのですが、ギャラリーをどう考えるかということがあるものですから。というのは、絵画なり、書というものを展示したときに、あまり外からの光が燦燦と入ってくるようでは作品の鑑賞には向かない。大体、展示をするスペースというのは外光を遮る、柱やなんかで遮られるということではなくて、例えば、全国規模の日展なんかの場合ですと100号規模以上の作品でないとはだめですね。そういう大きなものも展示できるようなものを考えてらっしゃるのか。私は考え方は大賛成なんですけど、そういうところを十分配慮したものをお願いしたいという希望を込めて申し上げます。

【事務局】

これから順次詰めていくことになると思いますが、そういうご意見があったということで、参考にしながら検討を進めていくことになろうかと思えます。

【藤野委員】

私は音楽の方なので、音楽活動、合唱なり、オペラとかの団体として、こういうホールの計画ができたことは大変ありがたいと思えます。それで、練習室、先ほど北上の方で大変安価に開放して、その練習風景がそこに集まった方にも見られる工夫をされているということがありましたけれども、人が集まってなにかをやろうとすると練習する空間に大変困っております。公民館を利用する、あるいは、その中の会員の一人が学校関係者であれば教室を利用するということがありますけれども、ほとんどが公民館をジブシーのように渡り歩いて、しかし同じ団体が月に何回も借りられないということがあるので、工夫しながらやらなきゃいけない。余談ですけども、この前、学生が3月2日にオペラをやるので、護国神社にお祓いをしに行ったのですが、会場がものすごく広くて、ここだとオペラを4つぐらいできるスペースがあった。広いスペースというのは非常に貴重で、練習室が12室以上ということですが、使用目的でギャラリーとかガレリアという声もありました。部屋の広さも幾とおりにあるんだと思えますが、使用者にとっては、駐車場の問題もありますが、本番は大ホールでやる時も、同じ会場のどこかの部屋でやるということのモチベーションも踏まえて、リハーサル室の充実と使用者にとっての便宜を少しでも図って頂きたいと思えます。それから、考え方の違いとしては、私はリハーサルはあまり見せたくないということがあります。どうしてかと言うと、練習は練習で、見せてもいいような段階になると公開リハーサルとかあるんですが、時と場合でそういう部屋があってもいいかもしれないけれども。出演者が火花を散らしてやっていて、ある程度形になるまでは内側の稽古でも良いのかなど。やる側にとってはそういう思いでやって、人に見せていいものとはここはダメということが創作活動する者にとって思いがありますので、もし、オープンな練習室ということをお考えの場合は、そういう部屋があってもいいけれどもカーテンも閉められる場所があっても良いと思えます。

【貝山委員長】

そういうご要望、ご意見があったというふうに受け止めさせていただきます。ガラス張りにするかどうかとは別な話になるかもしれませんが、ここに人が集まっているということを適宜見せなければならぬと思うのです。山形は、どこに人が集まっているのかわからないと言われます。駅前コンコースを歩いていてもなかなか人とすれ違わないと言って東京に帰る友達もいるんですけども。山形はちゃんと人がいますよと言う

とどこに集まっているんだと言われ、やや答えに窮することがあります。前に、埼玉新都心の再開発プロジェクト選定の委員をやったことがあるのですが、出来るだけ1階にオープンスペースを作ろうということになり、関連するレストランや物販店は全部地下に潜らせました。そうしたら、通勤のときだけ人は見えますが、日中誰も人がいない。みんな地下に潜ってレストランや物販店に行っている。ゴーストタウンみたいなイメージで、たぶんこれは失敗作だったんだろうと思いました。やっぱり、人が見えるように仕組んでいこうということになり、手直しをさせてもらったことがありました。北上の話は、非常に真摯に受け止めるべきだと思います。藤野先生のお立場から、隠さなければならぬところもあるのは理解できますので、両方並び立つ工夫というのがあるはずですから是非お考え頂ければと思います。

【野口委員】

先ほどご説明や皆さんからの意見の中にもホールを使っているときだけではなくて、いかにしてその場所に人に集まってもらうのかというお話がいくつか出てきたと思います。それは非常に大事なことで、駅西ということで街の中心部のエリアを今後どうしていくのかということに大きな関係があることだと思います。前回の会でも申し上げましたが、文化施設で山形にこれから必要なものというものでは、先ほどお話にありました美術館的な機能、それから建替えがそろそろ必要かなと思うものに県立博物館があります。文化エリアということで駅西に多機能の施設を考えていただければいいと思っております。ホールと博物館というと行政の中では知事部局と教育庁ということでなかなか連携がとりにくい点もあるかもしれませんが、県民から見れば文化という一つのことでくくれると思いますので、県民一般の感覚で捉えていただければ大変ありがたい。県民会館の跡地をどうするかということも検討の中に入ってくるのかもしれませんが、中心市街地にどういうものを配置していくかということをいろんな部局と連携しながら考えていただければと思います。

【奥田委員】

プロデュースしていて、人はなかなか集まらないことがありますが、美術館の受付とかですと応募者が集中するので、美術館が来るとなると人が集まります。働きたい人がたくさんいます。

【貝山委員長】

どうもありがとうございます。半分冗談で、先ほど埼玉新都心の賑わいを創り出そうというので、毎日人が来るようにするには何がいいかというので提案した人が、家電量販店を連れて来いというんです。駅の前に持ってくれば人が集まるんだよというんですが、ちょっとイメージが違うと思いましたけれども、極端な話はそういうことなんです。今こういう公共施設というのは多機能型で、分散でいろんな種類のものを個別に持っている、維持管理が大変になってくるので、できるだけ公共機能というのは1箇所あるいは数箇所に集めて維持管理をやりやすくしようと。埼玉県の鶴ヶ島というところで小学校は小学校だけでなく、老人の厚生施設というのも兼ねるようにと。一番問題になったのは、子どもたちの安心安全をどう守るということで、結局、学校というのは塀に囲まれています、取り外さなければいけないというので。それをどうやって守るかというとお年寄りが守るんだということで折り合いをつけて小学校にいろいろな機能を付設してスタートする、建て直しにあたってそうことをやっているという話がありました。

ここは、他に美術館とか博物館とかでしたが、公共機能を集めることが可能であれ

ば考えて頂きたいというのも私も同意見であります。

【三浦委員】

私も野口委員の意見に非常に共感するところが多くあります。今日もこちらの会館に来て、ここが文翔館と並んで一つの山形の文化的拠点となっていると思います。これが抜けたあと、ここがどういう風な位置づけになるのかということ、合わせて駅前の拠点が山形市の都市構造を変えていく可能性が高いし、将来の都市構造をどうしていくのかということを考えなければならないと思います。この構想から20年間たち、20年間の中でも社会が大きく変わって、山形市の都市構造も大きく変わりました。車社会もますます進んできて、郊外大型店舗がどんどん出てくるというような劇的な変化が起きてます。これからの20年間を見据えて考えていかなければならない訳ですが、そうしたときにどういうことが起きてくるのかという話だと思います。少子高齢化が益々進んでいく中では、交通の問題、特に西口という拠点は交通の結節点になってくるはずですが、そういった意味でも交通をどう捉えていくのか、交通機能をここにどう入れていくのかということも合わせていろんな機能を都市全体として今回の拠点整備を考えていかなければならないと思います。ですから先ほどの博物館のことを含め、ここが抜けたあと跡地をどう活用していくのかということも同時並行で考えていかないと、今回は西口だけ考えますということでは済まないのではないかと思います。

私は、再生可能エネルギーという観点で出席させて頂いているわけですが、ここも50年たったということで、次の施設もおそらく50年以上は考えなければならない訳です。50年後というと石油はないんです。そうしたなかで、西口の施設、霞城セントラルからテルサにかけて地域熱供給施設ということで地面の中に配管がされています。その配管の中にお湯が回っていきまして、霞城セントラルでつくられたお湯あるいは冷水がテルサまで運ばれている。間のこの場所にも熱供給あるいは冷房供給する予定になっていたわけです。こういうインフラがあるということは、都市として素晴らしい基盤があると考えていいと思いますが、残念ながら今のエネルギー供給は石油であります。脱石油というのをどうやって図っていくのかということを考えていかなければならない訳ですが、いずれにせよ配管というインフラは最大限活用していけるのではないかと。今は石油ですが、転換していくこと、再生可能エネルギーに変えていくことが西口全体が石油に頼らない新しい持続可能な街づくりを生み出していくポテンシャルの高い所だと思います。是非、今の石油を再生可能エネルギーあるいは、都市ガスにエネルギー転換を図っていくような拠点にして頂くと、防災面やいろんな意味でも波及効果が出てきます。また、資料の中には太陽光発電とありますが、山形の場合は森林資源、最近ではバイオマスと言われていますが、間伐の必要性が非常に高くなってきている。間伐材を使ってお湯を作って熱供給していくということは、ヨーロッパではこういう施設でよく行われていることです。残念ながら日本ではこういう施設がないものですから、もしここで森林資源で熱供給ができれば、世界に誇る環境都市になっていくのではないかと思います。ここに書かれておりませんでしたので、そういったこともご検討いただければと思います。いずれにしろ、長期的な視点で、20年50年の視点でこの計画を見ていただきたいと思います。

【貝山委員長】

今の三浦先生のご発言に対して何か事務局のほうからご意見ありませんか。

【事務局】

今のコジェネレーションについては主に石油でやっております。文化施設が出来ることを前提として作った訳ですが、真ん中に施設が無いことで全体の余力からすると効率が悪

い状況になっております。容量にあった、能力にあった使用をして下さいという要請を受けているところであります。この問題になりますと、3つの施設全体の話になって参ります。おっしゃるように都市計画全体の話ということになります。もちろん我々だけで出来ることでもありませんが、50年後を見渡した重要なお話として受け止めさせて頂きました。

今のところこれだけのものを担うだけの熱供給や再生可能エネルギーを設けるかどうかという検証も必要なのではないかと思えます。技術的な問題もあろうかと思えます。バイオマスのほうは、そのための熱供給施設がどの程度の大きさになるのか今は技術的なものを持ち合わせていないので何とも申し上げられないのですが、様々な点から勉強、検討というのは考えていく必要があると思えます。再生可能エネルギーや省エネルギーやバイオマスということを県も大きな方向性として打ち出しているわけですので間違いはないのですが、不確定要素があるので答えにくいところもあります。ただあの場所で供給できる体制が整えられるかという技術的なところと、コスト面等の財政面の制約もあるので総合的に検討する中で今のご意見を受け止め、考えさせて頂きたいと思えます。

【知事】

私は、建物だけのことで完結というわけではなく、県全体のことを考えるべきだと思っておりますし、林業振興ということも言っておりますし、環境教育ということも総合的にやっていきたいと考えております。山形特有の技術というのもたくさんございますし、できる限りベストミックスのモデルみたいな建物にできればいいかなと思っております。どこまでできるかわかりませんが、先生のおっしゃることもできる限り踏まえていきたいと思っております。

【貝山委員長】

どうもありがとうございます。前回の懇談会でも山形らしさということをおっしゃる方も強調されていたかと思えます。いろんな出し方がありますが、劇場ホールという形だけではなくて、運営の仕方も含めて、あるいは、施設整備のやり方でも山形らしさを出せます。特にこのエネルギー問題に関しては、これが世界のモデルになるようなものができたら本当に嬉しいと思えますので、知恵を絞って、ぜひベストミックスを見つけていただければと思っております。

跡地利用は、この懇談会の範囲を超えているように思えます。確かに、都市計画あるいは都市の発展の姿を変える大きなインパクトを持つ施設整備です。今後この跡地がどうなるのかと心配して相談に来られる方もおります。重要な問題だと思えますが、別なところでご検討いただければと思えます。

【大泉委員】

総合的な話になってしまいます。モデル的なところ、前回もお話させて頂いたところですが、他県の方がJR等を利用してきていただけるような、モデル的な施設というか都市計画を見学に来て頂けるような施設にしたなら山形のアピールにもなると思えます。山形が技術的にも最先端を行っていて、米沢や鶴岡で話題になっているので、そういったものがあるというパネル等を展示するなど、山形をアピールする場もこの中に取り入れて、他県の方が県内山形市内にある施設を回れるような交通網なども考えていただければと思えます。ここに来ればそういう所にも案内して頂けるとか。再生エネルギーも予算がかかると思えますが、出来る限りモデルになるような、見ていただけるような、50年後を見据えた計画でいくらかでも入れていただければ素晴らしい施設になると思えます。

【古内委員】

地元商店会の者として、土地区画整理事業が該当している者として言わせて頂きます。土地区画整理事業は終わっていない。県の施設ができて初めて土地区画整理事業が終わるんだということは前回申し上げました。前回渡された資料をよく見ますと、20年前の計画がそのまま今実行しようとされています。それが本当にいいのだろうか。3年ひと昔、1年ひと昔といわれる時代に、20年前のものがそのまま実行されていいのだろうかと考えたときに、県民会館というのが出てきました。文化課というところがはじめられるので県民会館でしょうけれど、では、体育課というところで駅西口に拠点施設を建てたらという企画があるのか考えた時にどうなのかと思いました。山形県は、中山町には野球場があって、天童には陸上競技場があって、霞城公園のなかには体育館と武道館があります。何が一番足りないかという、モンテディオ山形を支援するような全天候型のサッカー場を駅の西側に持ってきてはどうかと考えています。その場合、土地が足りないんじゃないかという話もあります、ギリギリ入るとい話もあります、とすれば極端な意見ですけれどもテルサを壊してしまえと思っています。そうすれば、間違いなくサッカー場ができます。なぜサッカー場にこだわるかという、今現在の施設では、2万人ぐらい入りますが1万5千人ぐらいを呼べるアリーナみたいな音楽施設ができると思います。ですから、EXILEとかAKBとかそういうものを呼べて1万5千人で大イベントができると、人間が動きます。それだけでなく、その中で物産市などもできます。そういう風に考えると、あそこに全天候型のサッカー場を持ってきたら面白いんじゃないかと考えております。極端でしょうけれども。数字的に言うと、県民会館でどのぐらいの人が呼べるのか。モンテディオの場合だと年間だいたい22試合ぐらい地元で開催しますのでJ1で1万5千人、J2で8千人ぐらい入りますから人数計算して最終的に経済効果は50億ぐらい出ると思っています。県民会館よりは、地元としては、人が動くし経済効果もあると考えています。これは個人的な意見ですが。そこを県民会館とするとなったときに、県民会館だけでは広域的効果がどれだけ出るかと考えるとあまり効果がでないと思うので、イベント広場というのは確実に作って欲しいのです。イベント広場で何をするかという、物販ではなく、各市町村が土日に週替わりで物産市などを開いて、県民会館の中では観光情報のフィルム上映をしてもらおうとか、良いところがあるという講演をしてもらおうとか、中でパネル展を開くとかすれば、次回の地元でのイベントのときに、地元に来てもらえればもっとおいしいものが食べられるとかいろんなものが見られるということをするれば、県民会館の効率が高くなると思います。

【園部委員】

今、古内委員がおっしゃった意見はなかなかユニークな発想で、確かにモンテディオのためのサッカー場が近くにあれば良いんでしょうが。今回の構想は、今日この会議をここ県民会館でやっていることもあるのですが、やはり、山形の文化施設が正直いってあまりにもここでは時代遅れじゃないかということが発想のポイントだと思います。やはり、文化施設をつくるという発想を進めていただきたいと思います。というのは、私は山響の立場と放送関係のイベントをする立場で申し上げているのですが、そういうことをするのに適合する施設が山形にないということが、文化的に全国的にみてはっきり申し上げて遅れている。そこをまず解消することが必要と思っています。

【古内委員】

その部分も私は考えておまして、絶対に駅前に県民会館を建てなければならないのかと考えた時に、県立病院の跡地もありますし、市民会館がかなり老朽化してしまっていて建替えなきゃならない時期にきています。ですから、テルサを市民会館と一緒に建ててしまう

とか、県民会館、市民会館、テルサを一緒にしたようなものを市民会館の土地に建ててしまおうとか、いくらでも土地はあると思います。ですから、必ず駅の西側に建てなければならないという理由はないと思います。

【園部委員】

先ほどは、古内委員の意見に対して申し上げたものですが、私のこの会議での意見を申し上げさせていただきます。7ページの資料を見ますと霞城セントラルと拠点施設とテルサがあるという形が他の地域での施設と山形が違う点という感じがします。霞城セントラルと新しい拠点施設とテルサを総合的に、有機的に結びつけることによって山形の独自性が全国に発信できるものが作られる可能性がある。また、ここに山形駅があるということです。駅というのは一つの要ですから、そこに人が集まりやすいということもありまして、山形駅の近くに3施設があるということ大きな特徴にしていけば従来の他の地域にない、山形ならではの文化施設の大きな拠点ができるのではないかという気がします。霞城セントラルと新しい拠点とテルサとを結びつけた非常に広大な形になる訳です。そういう意味では、素晴らしい施設ができそうな感じがします。資料7ページの構想を活かして全体の構想の一つとして考えて頂くようなことをお願いしたいと思います。

【奥田委員】

飲食店のところですが、なるべく家賃を安くして、カウンター11席だけの席をつくって店をいっぱい入れる。気仙沼横丁をプロデュースしていますが、カウンター11席だと2人でお店ができるんです。例えば前菜をやるレストランはそこだけにして、パスタやる場所も専門です。真ん中に机があるとそこにみんなものを買って行って食べたり、カウンターで食べたりして、暇な店にも忙しい店がカウンターいっぱいなので人が待ってるんです。その間、お客さんが回遊するんです。必ず入れるのが産直と魚屋さんで、産直と魚屋さんは5時ぐらいで閉まるとその人がレストランに食べに行くんです。カウンター11席の何がいいかと言うと、お客さんが回転寿司みたいにお金の使い方が考えられるのです。フルコース食べたい人は、前菜、パスタ、肉屋さんというふうに替えることができ、すごく賑わっているんです。若い人たちのちょっとしたチャレンジをするところになるとちょうどいいです。必ず後ろに仕込み場というのをとっておくと、産直も良くて、レストランも良くて、魚屋さんも良くてという感じになります。全部お金が回っていきます。私がレストランをやっていると思うのですが、6次産業化商品つくるときに、いろんな業者の方に電話するのがもったいないんです。そのときに、霞城セントラルにデザイナーの方がいたり、紙媒体の方がいたりすると商品になるまですごく早いんです。案がある間に、同じことを考えている人が日本全国のどっかにいて先越されるときもあります。すぐ形にしたほうが、勝ちの時代になってます。霞城セントラルと農家の方が産直に持ってきたものを商品にするまでをうまく繋げられる人がいて、形になるとそれをアンテナショップに回したり、百貨店のバイヤーの方が同じビルの中にいたりするとまわっていくと思います。そんな機能ができたらいいと思います。

【貝山委員長】

ありがとうございます。先ほどの古内委員のことにも関わるんですが、劇場ホールだけで人を集めようとするそれは大変なことだろうと思います。だからこそ、多機能型のものをつくらなければならない。その中に今奥田委員の言ったようなことが入ってきて、実は経済効果というものは、駅前と周りの商店街に留まるのでは、県の施設をつくる意味がないんです。県全体にちゃんと波及していくからこそ県の施設なのです。さっきの話は、農業、農家のほうまでちゃんとこの効果が浸透していけば県全体までいくわけです。そう

いうことをきちんと考えてやっていかなければならないということで、今の奥田委員の発言は大変参考になるし、実際に立ち上がる時にはいろいろ提案をしていただければと思います。山形がこんなもの作ってますよとかこんな美味しいもの食べられますよと見せるだけではダメなんです。人を集めて金を使わせる、物売って収益ということを考えていかないと。いずれこの施設だって税金をどのくらい投入するのか、あるいはしなくてすむのかの議論になりますが、いくらでも収益を上げられるところは上げていって費用をカバーしていくという発想を持っていかないといけないと思います。芸術ホール機能として最低こういう機能をもってないと山形らしいものがないというものはちゃんと維持していかなければならないと、その折り合いはなかなか難しいところですが、人集め、金集め、人や農家を育てていくというところまで広めて考えていただければと思います。

【田中委員】

奥田委員がおっしゃっていた農家を育てていくというところにつながって、思い当たったので発言させていただきますが、東北に若者の雇用をつくる株式会社で、お土産の商品企画とか開発をやっていますが、商品をつくって市場に投入するときに、お客さんがどういう反応するのかということで市場調査を必ずすると思うのです。山形の駅西を考えた時に、観光客の方も来るとということが想定されます。商品企画をするときに、地元の方の意見と観光客の方の意見は見る視点が全く違う場合があるのですが、6次加工品を作っている方たちというのは、観光客に意見を聞く機会がないと思います。市場調査に特化した形の販売という機能が備わっているというところがあると県の施設だとすごくいいのではないかと思います。銀座のアンテナショップとかでもきつとやられている制度ではあるんですが、もう少し突っ込んでやるとさらにブラッシュアップして、1回売って見たんだけどどうでしたかというフィードバックが出来て、東急ハンズの例ですと30センチ四方のところを置いてそれが50個くらいあるのですが、新しい商品の卵たちですとならんでいるコーナーがあります。そういう企画があっても面白いと思います。

全く離れますが、女性や若者の場づくりに特化してファシリテーターとかをよくやっているのですが、さっき北上の施設ですと話している方がいっぱいいるという話でしたが、新しい何か生まれてくるときのきっかけの場として、対話の場というスペースがあるとそこにたまっているだけで新しいアイデアが出てくる、人のいいたまり場があるといいなと思いました。

【大谷委員】

今回たたき台を示していただいた訳ですけれども、私たち芸術文化活動を県内で実際にやっている立場の者からすれば、2つの観点を前回もお話申し上げた訳です。1つは次世代の子どもたちを文化的な環境に恵まれたところで、せめて国内の一般的なレベルを確保して欲しい。具体的にこの前合唱コンクールの全国大会が山形には来ないと1つの例を挙げました。この県民会館も50年前はそうではなかった。私も開館当時のことを知っていますが、ほんとに素晴らしいものが出来たと思って、山形の芸術文化も大変盛り上りました。しかし、50年も経つと現在のようになっているわけです。改めて県民会館をみて思い出しておりました。市内の一等地にこうした施設をつくった当時の人の思いというか、県側の考えというの、ただ古い古いというのではなくて、それなりの思いがあって精一杯つくったものだったんだと思っています。時代はどう変わっていくかわかりませんが、今、子どもたちにとって何が重要かと、どのくらいのことが私たちにできるのかという視点を大事にしたエリアになって欲しい。そういう意味では賑わいというのも大事なことだと思いますが、体育の方も大事なことだと思いますが、今、文化的環境は極めて困った状態にあると。そこをなんとか県で新しい考え方を出していただいたことに私は嬉しく

思っておりますし、是非実現するように。1つの数値として1800席から2000席の大ホールというたたき台を出していただきましたが、是非これはお願いしたい。とにかく最低1800席ないと合唱連盟の方では全国大会の大会基準の候補から外してしまうというルールができておりますので、かつて、山形西高校をはじめとして合唱面では全国レベルだったものが今、残念ながら、全国大会がこの山形ではできないと。こういう状況をお考え頂いて、若い人たちがこれからも夢をもって芸術文化に取り組むように是非していきたい。具体的な数値としては、そこがまず1つです。それから、たたき台のもう1つに多目的ホールという提案をしていただいておりますが私はこれでいいと思います。前にオペラハウスのなとということで原案ができた時期がありましたが、私たちは必ずしも賛成ではありませんでした。しかし、今回のたたき台については、これからの時代はいろいろなものに活用していけるそういう空間であるのが時代にあっているという風に思いますし、私たちの芸術文化活動もいろいろ変化しています。古いものも大事にしていかなければなりませんけれども、新しいジャンルもどんどんできておまして、我々の芸文のほうでは19の種類専門部があるんです。時代に対応した皆さんの活動を活かしていく場としては多目的ホールが望ましいと考えます。

【伊藤委員】

私は、第1回目に欠席したものですから、ちょっと話があわないところもあるかもしれませんが、感じたところを申させていただきます。私も、多目的ホールにならざるをえないと思います。まず2000席のホールが無いということが、県民にとって不幸だと思っています。公演していないときの県民会館の状態が寂しいものにならないでもらえたらと漠然と心配しておりました。今日はじめてこのたたき台、いろんな組み合わせを見させて頂きまして、ちゃんと整合性がとれればうまくいくんじゃないかという気がしてきました。それぞれの専門分野の方にはいろいろ物足りない、あるいは余計なものというのがあるかもしれませんが、それはそれとして今後つめてもらってより整合性のとれた総合的な施設になって欲しいと思います。それから大ホールというのは、駅西にはテルサがありますから対応されていると思いますが、ホールというものは大は小を兼ねないんです。跡地の問題までいろいろ出ていますが、1500ぐらいがちょうどいいというものもたくさんある。2000じゃちょっと使い切れないという催しがたくさんあろうと思います。ですからこれはいつまで使えるのかわかりませんが、それなりに手をいれて、ここでいいという団体に活かしていくべきだと思います。どうしてここかというのは、文翔館が筋向いにあり、ちょっといくと遊学館があり、さらに東に行くと今整備中の庭園があり、教育資料館もあります。この核は残すべきだという気がいたしておりました。

【貝山委員長】

お城の中から済生館を持ってきたらということをする人もいます。そうすると、文翔館と非常にフィットするんじゃないかと。山形が誇る文化遺産の集積をするという発想なんでしょう。ただ、山形市の持ち物なので、もしそういうことがあるとすれば県と市がお話し合いいただければと思います。いずれにせよ建物は耐久性がなくなって使えないという前提でしたか。

【事務局】

耐震改修を平成17年に行っていますので、主体構造部は一応20年持つということになっておりますが、今すでに7年たっておりますし、順調にいてもこれから相当な年数がかかりますから出来上がるころには耐用年数は相当に減じているとみております。

【奥田委員】

今いろんな歌手の方とプライベートでお付き合いしていて、どこに歌いに行くかというときに、ここで歌いたいというようなホールがあります。意外に、ビックネームの歌手が歌いにきます。例えば、湿度を高めるために水を張らせるところがあるとか、全国どこにもないようなほんとにちょっとしたことでいいのですが、ここで歌いたいと思う仕掛けがあるといいと思います。

補足ですが、ホールの中にちょっとした特等席があるといつかはそこに座りたいと思う。人間は上昇志向があるので、そういうところがあるといいと思います。

話はかわりますが、利便性とか周りにホテルがたくさんありますし、大きな全国大会をやったときにそのホテルに泊まる人紹介したり、周りのレストランに県庁の方で総支配人の様な方がいてレストランにこっちは何人、こっちは何人と振り分けるような仕組みがあると全国大会が来ると思います。ちなみに、私のレストランが暇なときに、山大がたくさんサミットをやってくれたので食いつないでいけたのです。周りを見ると飲食店がたくさんありそうなので人を割り振るといいと思います。

【伊東委員】

北上の話をしていただきましたけれども、ホールを作るときにはどちらかというとなり日常の特別な場という印象が強いかと思いますが、ピラミッドの構造だと思うのです。質の高いことをやって頂点を高くすることも非常に大事だと思うのですが、いかに底辺を広げていくのか、ボトムアップをしていくのかということ抜きには語れない。特別な催し物をして満席になるというのが年に何回あるか、全国にいいホールはたくさんある。全国47都道府県あるわけです。全国大会は順番に回ってくると47年に1回しかない、そのことだけを考えると経営はできない。1万人入ったって、レストランのキャパが11人だったらそれ以上は無理なわけです。そのバランスを考えていかないと成立しないのだからと思います。ですから、イメージとしては、シンボリックには全国大会をやりたい。だけど日常をどうするのかというところ抜きには絶対語れない。ホールは1席あたりだいたい6~7平米ぐらいが平均だと思うんですね。そうすると、2000席として6平米だと1万2千平米ですよ。ものすごい面積が必要になってくる。そして今回非常に広い舞台を取りたいということになっていますが、お金を取れるのは客席だけなのです。利用料金は1席あたりいくらとなっていますから、いくら舞台が広かろうとホワイエが広かろうとそこはお金を生まないし経済効果があまりないのです。そういうことを考えていくと、楽屋を日常では会議室で使ってもいいじゃないか、ホワイエを展示場で使えばいいじゃないかというふうに経営のことを考えていかないとうまくいかないと思うのです。その2面性をうまく使っていくというのがこれからのホール作りには重要なことだと思います。

【奥田委員】

飲食店ですが、普段は屋台村的なところで営業していて、霞城セントラルのような周りに大きい客席のレストランがあるので、そういうのが来たときにそっちにまわしていくという使い分けができる。一番レストランやっていて困るのは人の問題なんです。労働基準法とかいろいろ厳しくなっていて多くの人数を使うのはリスクがある。リスクを回避するために2人で独立してやっていて、普段はそこにお客さんにたくさんきてもらう。多く来たときには大型店に回していくというふうにするとうまくきれいに回るイメージはあります。

【古内委員】

私もどちらかというとオーケストラに入っていた人間で音楽は非常に興味があるのですが、1つだけ非常に体育会的な話をさせていただきますけれど、東京ドームなんかを考えて頂くとわかるのですが、世界の蘭展とか世界のパッチワーク展とかそんなことを一生懸命やって、いろんなイベントをして人を呼んでいますし、山形だってモンテディオのサッカースタジアムの中でそういったイベントをいくらでもできます。先ほど伊東さんが言ったようにてっぺんの人間だけじゃなくて下の人間を呼ぶには何がいいか。今のニーズや若い人たちが何を考えているのか。それはやっぱりEXILEやAKBが来てほしいとかそういうところがすごく望まれている。昔、落合の体育館でとんでもない格好をした男の子と女の子がぞろぞろと出てきて、これはなんだと言ったら、芸能人の素晴らしい音楽会があった。でも場所が狭いと。サッカー場の中で1万5千人くらい集まるような1つの施設があれば音楽だって根付くと思いますし、必要だと思います。そこで、音楽だけじゃなくていろんなイベントが開催できる、人を寄せることができるのであれば、大変失礼ですが、県民会館的な文化ホールの施設よりはいいのではないかと思います。

【貝山委員長】

これは、私が口を差し挟む問題ではなさそうですので、事務局のほうでこういう意見もあるということで頭に入れておいていただければと思います。天童にサッカー場があるというのが一番大きな問題かもしれません。

【古内委員】

あれは、陸上競技場です。

【貝山委員長】

陸上競技場ですか。2つ重ねて持てる余裕があるかどうかです。予定の時間を少しオーバーしているのですが、三辻先生から専門的な話を伺ってないので、お願いします。

【三辻委員】

防災と減災のお話についてさせていただきます。2011年3月の地震の前、山形県は、特に山形市は、そもそも全国的に見ても災害の少ない場所ということは知られていました。2011年のときも、例えば山形空港は、自衛隊がベースにしているいろんなところに救助に行ったり物資搬入したりしていたわけです。それから、震災直後からわりと仙台までのルートも通れましたし、新潟のほうからも道路がつながっていたわけです。ですから、日本海側と太平洋側を繋ぐという点でも結構重要な役割を果たしたとっております。防災拠点になりうるのだというのをアピールできればいいというふうに地震の直後から思っていた訳ですが、今回の話があって、駅の西口にできるということもありますので山形県や山形市だけの防災拠点ではなく東北地方に誇れるような機能がもてればいいとっております。防災に特化した機能を備えるというのは付けた時はいいんですが、災害はしょっちゅう起こるわけではありませんからいろんなものをつけましたと言っても、一時的に話題になっても使われなければ意味が無いわけです。防災に特化した機能も一部は必要かもしれませんが、できれば普段から使っているものを災害時にはこういう形に転用しますというストーリーをきちんと描けることが大事じゃないかと思っております。太平洋側で、緊急地震速報装置が小中学校に配置されいていましたが、うまくいったところもあればうまくいかなかったところもあって、普段から積極的に避難訓練やってたところはわりと有効に使えたんですが、普段から使っていないと電源が入ってなかったり使い方がわからなかったりなど、物があっても使えなかったということもあるので、普段使っている機能を災害時にはこういう機能に転用しますというプログラムをあらかじめ作っておいたほうが

有効に使えるだろうと思います。具体的にどんな機能が日常的な機能かというところ、防犯機能は1つ可能性があるのではと思っています。人が集まって賑わってくると防犯面も配慮しなければならないと思いますので、駅の西口、テルサ、霞城セントラル、こういったところと連携して、日常的な防犯面の配慮をしながら、災害時には防災的な対応をするというのがあっていいと思います。災害時には電源の確保とか、水とか、ガスとかをどうやって復旧させるかという話が出てくると思います。特に電源については、駅の東口側にNTTの立派なビルがあります。これは宮城の方で聞いた例ですが、宮城県庁の近くにNTTドコモのビルがあるのですけれども、そこが県の災害対策本部のバックアップ機能的な役割をした。つまり、NTTですから、電源が割と早く確保できるわけです。通信機能もNTTということで。民間機能との連携というのも大事なことになると思います。個別のことは段々決まってくると出てくると思いますが、大きな話として、申し上げたようなことを思っていました。

【貝山委員長】

どうもありがとうございました。大変貴重な良いお話だったと思います。そろそろ3時になりましたので、閉めたいと思いますが、なお、ご意見おありかと思いますが、適宜、必要なときに事務局の方にお寄せいただければと思います。時間が限られておりますので、次の議事に入りたいと思いますが、3の「次年度以降の有識者懇談会について」というところですが、事務局から説明、ご提案をお願いいたします。

【事務局】

それでは、この懇談会の関係について皆様にご相談したいと思います。この懇談会につきましては、要綱上は今年度限りとなっておりましたが、先ほどございましたように来年度この拠点施設の内容を固めていきたいので、継続して開催していきたいと考えてございます。皆様から引き続きこの懇談会の設置・参加につきましてご支援とご協力をお願いできればと考えてございます。来年度の大まかなスケジュールですけれども、年度前半で整備のたたき台をまとめまして、年度後半に懇談会で内容を検討していただくということで、10月頃と2月頃に2回ほど開催させていただきたいと考えてございます。なお、個別の事情等ある方もいらっしゃるかと思いますので、この懇談会の存続ということでご了解いただければと思います。よろしく申し上げます。

【貝山委員長】

今、この懇談会を来年度も設置して、引き続き意見交換をしたいという事務局からの提案がございました。これについて。どうぞ。

【柴崎委員】

この懇談会の意味といいますか、着地点といいますか、最終的にどういうところに導くのかというところが2回出席させていただいて分かりにくくなってきました。何を申し上げたいかといいますと、前回是非ここでやってください、見たいのですと申し上げたのは私なのですが、今日、県民会館として備わっていない不備な点について沢山拝見いたしましたし、県民に対して文化に触れる機会を持っていただきたいということは十分に分かったのですが、やはり駅西にというところがですね、落ちてこなかったのです。駅西になぜ今文化施設なのかと。違う場所に作ってもいいじゃないのかと思ったのですが、この懇談会の名前が駅西拠点施設検討なのですね、この点を明確にさせていただいて、先ほど、古内さんが発言された内容は県民にとって非常に大事な内容だと思いますので、そういった話も議論できる懇談会なのか、それとも駅西に文化施設を造るという懇談会

なのかを、事務局から明確にしていただければと思います。

【事務局】

そもそも駅西地区の区画整理事業の段階で、平成5年の文化振興指針の中で、この地区に文化施設を核とした施設整備を進めていくという方向性が示され、それを踏まえた形で20年間ずっと議論してきたわけであります。当時の計画の中では、山形市もテルサを造る、あるいは全体として文化的な施設を県で造っていくという方針もできているのでありまして、県と市がこの駅西の再開発事業を行う際に、ここに文化施設を核とした施設を造るという方向があったということなので、この懇談会はそこを踏まえてやっている、現在、土地を県が所有しているわけですが、これはそのために取得している土地であるという認識ですので、こういった名前の懇談会という形になっておいて、それを前提として議論を賜っている、このように考えております。

【柴崎委員】

すごく理解ができました。ものすごく理解できたのですが、県民に納得する形で説明なり、発信をしなければならぬ時期がいずれやって来ると思うのですが、ここにスポーツの方が座っていれば、スポーツの方もやはり必要、欲しい、という議論になると思うのです。この懇談会の名前だけを見ると、あたかも「ありき」で進んでいるように、前回の会議から数ヶ月経って、私もいろんな方からお話を頂戴する中でそういう経緯もございましたので、いろんな面でご対応いただきたいということと、私は何度も申し上げますとおり、古内さんのようなご意見をお持ちの方もいらっしゃいますし、そういった議論の場も、ここではないにせよ、どこかに必要ではないかと一県民として感じましたので、申し上げさせていただきました。

【古内委員】

吉村知事、いいですか。冒頭申し上げたとおり、駅西土地区画整理事業というのは、文化ゾーンがあって文化施設を建てるということだったのですけれども、あれから20年経っているわけです。20年経って20年前の計画がそのまま実行されること自体がおかしいと思います。ですから、やっぱり見直し、ゼロからの見直しが絶対に必要ではないかと思いましたし、先ほど柴崎さんがおっしゃったとおり、第1回目に来たときに、「これは県民会館ありきだな」ということを考えたときに、いや待てよ、本当に駅西に必要なものは何なのだと、表題に書いてあるとおり、駅西口に拠点施設を造るのにどうしたら良いかであって、県民会館ありきという話ではなかったはずなのです。しかし、前回聞いたときには県民会館ありきで話がどんどん進んでしまっているということがあったものですから、文化施設じゃなくて駅西の拠点施設は何をしたらいいのか、どういうものを造ったら県民のためにいいのかということ考えたときに、20年前の計画をそのまま実行していいのだろうかと考え、先ほど冒頭に申し上げました。だから、ゼロからもう一回考え直していただければ、ありがたいと思うのです。

【事務局】

もう一度申しますと、駅西の再開発事業用地というのは、平成4年度策定の基本構想、平成5年度策定の文化振興指針において、新県民文化施設の建設用地として位置づけられている、また、山形市の都市計画においても霞城公園とあいまった文化ゾーンとしての位置付けがなされていると、これは確かに20年前です。ただ、同時に県民会館の老朽化の進行状況が非常に進んでいる。先ほど来、課題として陳腐化を指摘されております。耐用年数も実はそれほど残ってはいないと考えています。出来上がる時期は、WT

○該当の大規模案件でもありますから、最短でいっても相当かかります。それを考えますと、やはり早急に県民文化施設というものを位置付けていかなければならない。そうした場合、今県が持っている土地で、そのための用地として持っているところを活用していく、ということが大前提だろうということで、この議論を進めさせていただいているところです。

【古内委員】

県立病院の跡地がありますよね。あそこだって十分に使える土地がありますし、向かいの美術館の下が駐車場になっているわけですから、あそこだって駐車場として利用することもできるわけです。県立病院の跡地では駄目なのでしょうか。

【事務局】

面積的に、今出来ている修正基本設計のこの大きさは当てはめることはできます。ぎりぎり一杯になります。ただ、駐車場は確かにありますけれども、周辺に住宅もございます。それに、大きな公演がありますと、11 トントラックが出入りするようになります。動線的に、これは余り厳しく検証してはいない話ではありますが、直感的に見て、動線の確保の点、それに公演が終わるのは8時、9時頃、終わった後に、相当遅い時間帯に出入りをしなければならない場合もございます。物理的に建物ははまるような形になっていきますけれども、それが果たして上手くいくかということは、時間がない中で、どこまでそれができるのか、専門家の先生にも聞いてみたいところがあるのですが、どんな感じでしょうか。

【古内委員】

それを言うのだったら同じ条件だと思えます。

【貝山委員長】

ここで、どこの土地に造るのが相応しいかということは、この懇談会の議論ではないと思います。これは、県で決めた方針に添って懇談会が設置されているので、都市計画の変更というのは、大変厄介な手続が必要だということは私も承知しています。その都市計画を見直すか、見直さないかということは議会等で議論していただいて、結論を得る。そうでないと、私達はここで自由なことは言えない。文化施設ありきでこの懇談会はスタートしていますので、それで良いのだと思います。

【吉村知事】

委員長、よろしいでしょうか。何回も出てきてはいるのですが、駅西という場所、20年前という話がありますけれども、霞城セントラルとテルサという話がありますけれども、3つの建物が有機的に相乗効果を生み出すということは非常に大事なことだと思っています。それから、全県的なことも考えなければいけないということも、私の中にはあります。それはそれとして、この前提をおいて、柴崎委員と古内委員が、モンテのサッカー場ということが念頭にあるのではないかと感じておりますけれど、今日、山形市の方でドーム型というようなことも考えているやに漏れ聞いておりますし、Jリーグの方で全天候型というような方向に行きつつあるのかというようなこともございますので、それはそれとして、一つ考えていかなければいけない、考えていきたい課題であろうとは思っています。ただ、ここに関しては、目前に早急に県民文化施設というものが必要なのだということをご理解いただきたいと思いますし、ここを直ぐ壊すということではなく、あそこにキチンと準備してあって、時代を踏まえ、大震災という体験を

踏まえ、教訓を踏まえて、普段の日常の賑わいというものも考えながら、総合的に多目的なものを考えていく。いろいろなお話を伺えて、私としては貴重なご意見をいただいたと思っています。体育施設、サッカーに関する施設は施設で考えていかなければいけないことであろうと思いますが、あそこに関しては一寸違うのかなと思っています。

【貝山委員長】

よろしいですか。そういうご意見があるということは、議事録にちゃんと残していただけたと思いますから、この問題につきましては、県の方でご議論いただきたいと思います。我々が決める問題ではないと思っていますので。先ほど、この懇談会を来年度も設置して、引き続きこの議論をしていく、このことに関して賛成ということによろしいのかどうか。

よろしいですか。それでは、来年度もこの懇談会が設置され、事務局の意向では、引き続き皆さんにご参画いただきたいということですので、特別な事情があって駄目だという場合には事務局に個人的にご連絡をくださいということによろしいですね。

ということで、私の進行する議事は全て終わりましたので、事務局にお返ししたいと思います。

【事務局】

委員の皆様から何かありますでしょうか。

【山口委員】

希望として、次の開催なんですけれども、できれば霞城セントラルから西口事業用地が見渡せるような、イメージできるような場所であれば良いと思いました。

【事務局】

次回の会場は、西口が見える会場、あるいは西口に近接した会場で想定して準備してまいりたいと考えます。

以上